

第1回 標準委員会 研究炉専門部会  
研究炉廃止措置分科会議事録（案）

1. 日時 平成12年11月22日（水） 10:00～12:20
2. 場所 東京電力（株）本店 新別館4階 406号室
3. 出席者（敬称略）  
（出席委員）高柳（主査）、岡本（副主査）、福村（幹事）、伊東、伊藤、片岡、小林、小山、紺谷、白川、谷本、中井、松尾、山内、（14名）  
（代理出席委員）五月女（吉田代理）（1名）  
（欠席委員）野崎、柳原（2名）  
（傍聴者）西村（専門部会委員）古平、村山（以上専門部会タスク員）（2名）  
（事務局）太田、市園

4. 配布資料

- R1SC1-1 標準委員会の活動状況について
- R1SC1-2 委員名簿
- R1SC1-3 標準委員会規定
- R1SC1-4 標準委員会運営内規
- R1SC1-5 標準委員会専門部会運営通則
- R1SC1-6 標準委員会規程・運営内規・専門部会運営通則の解説
- R1SC1-7 標準委員会活動の基本方針
- R1SC1-8 標準作成手引き
- R1SC1-9 標準原案の審議に関するガイドライン
- R1SC1-10 標準制定までの経過
- R1SC1-11 標準委員会委員会関連欧文名称及び略称
- R1SC1-12 研究炉専門部会の活動方針（案）
- R1SC1-13-1 研究炉廃止措置分科会の進め方（検討資料）
- R1SC1-13-2 "Safety in Decommissioning of Research Reactors", IAEA (1986)
- R1SC1-13-3 「IAEAの研究炉デコミッションング技術報告書」の概要

5. 議事内容

事務局より、出席者の確認の結果、17名の委員中14名の委員と1名の代理委員の出席があり、決議に必要な委員数（12名以上）を満足している旨の報告があった。

（1）経緯の説明

事務局よりR1SC1-1により、これまでの経緯の説明を行った。

（2）分科会委員の紹介

委員がそれぞれ自己紹介をおこなった。また、事務局より傍聴者が紹介された。

（3）標準委員会規約類の説明

事務局よりR1SC1-3, -4, -5, -6により、標準委員会規約類の説明を行った。

（4）主査の互選と分科会役員の指名

a) 事務局からの主査選任方法の説明の後、出席委員全員（代理含む）による無記名投票が行われ、以下の結果となり、高柳委員が主査に選出された。

投票結果；高柳委員 得票 14票

岡本委員 // 1票

b) 高柳主査指名により、岡本委員が副主査に選出された。

c) 主査、副主査の協議により、福村委員が幹事に選出された。

d) 高柳主査より、「委員のご協力を得ながら活動を進め、標準を作っていきたい」、旨の挨拶があった。

（5）標準委員会活動の基本方針

事務局よりR1SC1-7により標準委員会活動の基本方針の説明を行った。規約類も含め、十分な質疑の時間が取れなかったため、質問・コメントがあれば、メール等で事務局まで寄せることとした。

（6）研究炉専門部会活動方針（案）

専門部会タスクよりR1SC1-12により研究炉専門部会活動方針の説明を行った。以下のような審議がおこなわれた。  
・標準案件のスクリーニングに際し、まずA.必要性でふるいにかけた。その他のI,J,K,Lは該当するもののみを性格付けを行う意味で記載し、スクリーニングの参考にした。

- ・D.基準、規格などの存在については、国内はもとより、海外についてIAEA,NRCを調べて、指針として判断に使えるものはないであろうとの判断である。詳細には分科会で調査する。
- ・標準案件の評価点数付けは、準備タスク（TG04）のメンバー10数名で議論して付けた総合的なものである。
- ・廃棄物処分については、原子燃料サイクル専門部会に含まれる分野であり、また、放射性廃棄物管理分科会でも課題として挙げられている。研究炉では分野としてはないが、非常に重要な問題であり、念頭に置き進めることとする。
- ・研究炉に核燃料使用施設を含めるか否かについては、設立準備タスクより含める旨、専門部会に提案されているが、本分科会の対象範囲とするかについても早い時期に議論することとする。

#### （7）分科会活動の進め方

- ・専門部会タスクよりRISC1-13-1により、分科会活動の進め方についての説明があった。また、今後の検討の参考となる資料として、福村幹事よりRISC1-13-2、RISC1-13-3の説明があった。以下の審議が行われた。
- ・核燃料を取り出した時点が廃炉の出発点となり、核燃料物質の処理・保管が必ず議論となる。これを含めるか否かを早い時期に議論することとする。
- ・ここで扱う研究炉の範囲をどのように考え、本分科会で検討するスコープを明らかにする必要がある。設立準備タスクでは、一応、臨界実験装置／水冷却型試験研究炉／液体金属冷却型試験研究炉／ガス冷却型試験研究炉／その他（弥生炉、NSSR）の5つのグループに分けて考えた。水冷却型試験研究炉は、更に出力で、500kW未満／500kW以上で10MW未満／10MW以上で50MW未満の3つに区分した。
  - ・研究炉の範囲ということで次のような意見が出された。
- ・法律上の定義とは異なり、JPDR、もんじゅ、ふげんは発電炉と整理して、除くこととする。弥生炉やNSRRは単目的炉であるが、標準として多目的炉を対象とした汎用性のあるものが必要。
- ・分科会のスコープについて、時間的な制約を踏まえ、標準のまとめ易さも考慮して取り込む範囲を決める必要がある。

#### （8）その他

事務局より、西村氏（東京電力）から常時参加者としての申し出がある旨の話があり、常時参加者とするを全員一致で承認した。

#### 6. 次回開催予定

第2回分科会を、1月11日（金）を第1候補、1月15日（月）を第2候補として、決定は事務局からの日程アンケートにより行うこととした。時間は13時30分より開催とした。

以上